

受理番号及び 受理年月日	所 管	件 名 及 び 要 旨	提 出 者
28年－15 (28.5.30)	教 育	<p>給付制奨学金制度創設を求める意見書の提出について</p> <p>▶陳情理由 今、大学学費と奨学金制度をめくり学生達から切実な声があがっている。大学の初年度納付金（授業料・入学金など）は国立大学で約 82 万円、私立大学で約 131 万円にのぼる。高い学費のもと、お金が無くて進学をあきらめる青年が増えつづけ、学ぶ機会や将来への夢が奪われている。学費・奨学金を考える会では現在「学費の負担軽減、高等教育予算増額」をもとめる請願署名を集めている。</p> 署名活動などで対話になったとき、学ぶことにお金がかかるのは仕方がないと思うが、「負担が重すぎる」、「兄弟がいるので、自分は学費がかからない短大に行くことにした」、「友達がバイトを遅くまでして授業に支障が出ている」、「学費と生活費を奨学金とバイトで月 20 万円工面しているが、奨学金は借金だと思う」、「一種、二種奨学金を併用し、将来の返済が心配」などの声が聞かれる。青年は、今すぐにでも学費の経済的負担を軽くして欲しい、奨学金の給付制度を創設して欲しいと望んでいる。 学ぶことは、人間らしく生きるうえで不可欠の営みである。青年が、学んでこれからの社会の担い手として成長してこそ、人類がぶつかっている課題を解決し、新しい時代をつくる道も開ける。経済的理由で学業をあきらめる青年をなくそうと、いま各地の大学で、学費負担を減らす動きが始まっていることは重要である。学びを守る社会を実現し、「教育をうける権利（憲法第 26 条）」を保障するため、政府が責任を持って手だてを講じることを強く求める。 <p>▶陳情趣旨 給付制奨学金制度をつくることを求めて、国に意見書を提出してほしい。</p>	「学費・奨学金を考える会」 代表 岡田未希